

地区を挙げて世代間交流

内親地区で「だんご刺し」



白川内親の生活センターで1月9日、小正月の伝統行事「だんご刺し」が地区を挙げて行われました。

小中学生親子や地域の方々など約50名が集まり、高さ8メートルほどもある巨大なミズギの木に、約60kgついたというお餅や縁起物を飾り付け、さらにライトアップも施して敷地内の広場に立てかけました。

この巨大な「だんご刺し」は、同地区で10年前まで行われていたもので、「地域の世代間交流を」と気運が盛り上がり、子ども会が中心となって復活させたものです。

消防出初め式

～防災の誓い新たに～

1月10日、ホワイトキューブで平成17年白石市消防出初め式が開催されました。約400人の市民が見守る中、640名の消防団員が整然と機械器具などの点検作業を行いました。

昨年は台風や地震など、各地で災害が発生したとあって、団員の皆さんも市民の安全と財産を守る誓いを新たにしていました。



▲出初め式には東・南・越河・大鷹沢保育園の園児たちも「幼年消防クラブ員」として参加。「火遊びはしません」などの防火の誓いや、「戸締まり用心・火の用心」と火の用心のうたを披露しました。



▲息の合った演技を披露した白石市消防団「階子乗り隊」の皆さん。



▲威風堂々の消防車両市内パレード。

市内各地で新春の事始め

こけしの初挽き



弥治郎こけし村に隣接する通称「こけし神社」で1月2日、恒例のこけしの初挽きが催され、こけし愛好家など約200名が集まりました。

地元の子どもたちによる「こけしみこし」や太鼓演奏、神事に続いて地元・弥治郎地区の新山学工人が初挽き者を務め、愛好家たちが見守る中、見事な弥治郎こけしを製作して神社に奉納しました。

日本刀初打ち

1月2日、昨年3月に宮城県指定無形文化財に指定された、宮城眞一さん(大畑・刀匠名昭守)の工房で、刀剣愛好家たちが見守る中、恒例の「日本刀初打ち」が行われました。

初打ちでは、刀を作る最初の工程の、玉はがねを熱してたたき、薄くのばして品質を見る「玉つぶし」が、厳粛な雰囲気の中で行われました。



よい年が迎えられますように

白石城で「除夜の鐘を鳴らす会」



大みそかの夜から元旦にかけて、白石城本丸内の鐘堂で、恒例の「除夜の鐘を鳴らす会」が開かれました。

白石城には、家族連れや友人同士など大勢の市民が駆けつけ、「よい年を迎えられますように」などと願いを込めながら、降り積もる雪でひとときわ静寂に包まれた城下に向かって、除夜の鐘を打ち鳴らしました。

伝統芸能の隆盛を祈念して

碧水園舞台開き



▲昨年10月から碧水園で実施している「子ども能楽教室」に参加している子どもたちも仕舞を披露。日ごろの練習の成果を見事に発揮しました。

古典芸能伝承の館「碧水園」で1月10日、舞台開きが行われました。関係者が能楽堂の舞台に立ち、伝統文化の隆盛を祈念した「舞台清め式」に続き、市民講座として1年間学んだ「高砂を謡う会」の皆さんの発表会を皮切りに、各団体の皆さんが箏曲や日本舞踊、詩吟などを次々に披露しました。



▲大町太神楽保存会の皆さんも縁起のよい神流神楽「種時舞」を披露。

「裁判員制度」の意義などを討論

新春を寿ぐ検審のつどい



仙台地裁、地裁大河原支部管内の検察審査員経験者などで行く「仙台検察審査協会」は1月15日と16日の両日、鎌先温泉で「新春を寿ぐ検審のつどい」を開催しました。

集いには会員や市民など約40名が参加。仏教布教師で映画監督の松林宗恵氏による「法の根源と生活信条」と題した講演に続き、東北学院大教授の田中輝和氏をコーディネーターに、平成21年5月までに実施予定の、一般市民が裁判員に加わる「裁判員制度」の意義や課題などについて活発に意見を交わしました。

すべての人が利用しやすく

白石駅にエレベーター新設

JR東日本仙台支社では、東北本線白石駅にエレベーターを新設し、12月24日から使用を開始しました。

国や市なども負担金を支出して完成したエレベーターは、白石駅の1番線ホーム、2・3番線の各プラットフォームと跨線橋上部をつないでいます。車いすを使用する方が方向転換することなく利用できる「通り抜けタイプ」を採用し、高齢者や手荷物を持った方なども階段を利用せずに容易に移動することができます。今春には、東北新幹線白石蔵王駅にもエレベーターが設置予定です。



おいしいイチゴで食農教育

イチゴ摘み取り試食会

12月から1月にかけて、福岡長袋の生ごみ資源化事業所に隣接した農業用温室「シリウスハウス」で、イチゴの摘み取り試食会が開かれました。試食会には保育園児や小学生、保護者など約700人近くが参加。9月に自らが苗を植えたイチゴとあって、甘さもひとしおのようでした。



シリウスハウスでは、生ごみ発電の過程で得た余熱を利用して、植栽から収穫までの一貫した農業体験を行い、「食農教育」や親子のふれあいの場として活用しています。

大雪をものともせず力走

白石城一周元旦マラソン



白一色に雪化粧した元旦の早朝、今年で42回目を迎えた白石高校陸上競技部OB会主催による恒例の「白石城一周元旦マラソン」が開催されました。

大雪にもかかわらず、同校OBをはじめ約60人の市民がマラソンに参加。「今年はトリ年。自分の目標に向かって羽ばたいて」と主催者から激励を受けた参加者たちは、足もとを確かめながら一周約2.5キロのコースを、各自のペースで力強く走りきりました。